伐採計画書

(は採を行う者) 氏名 電話番号

1 伐採の計画

伐 採 面 積	ha(うち人工林	ha、天然林 ha)
伐 採 方 法	主伐(皆伐・択伐)・間伐	伐採率 %
作業委託先		
伐 採 樹 種		
伐 採 齢		
伐採の期間	年 月 日 ~	年 月 日
集材方法	集材路・架線・その他	()
集材路の場合 予定幅員・延長	幅員 m · 延	長 m

2	備考					

注意事項

- 1 伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載すること。
- 2 樹種は、すぎ、ひのき、まつ(あかまつ及びくろまつをいう。)、からまつ、えぞまつ、とどまつ、その他の針葉樹、ぶな、くぬぎ及びその他の広葉樹の別に区分して記載すること。
- 3 伐採齢欄には、伐採する森林が異齢林の場合においては、伐採する立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「(○~○)」のように記載する。
- 4 伐採の期間が1年を超える場合においては、年次別に記載すること。

伐 採 計 画 書 (記載例)

(は採を行う者) 氏名 佐伯 太郎 電話番号 0972-22-3111

1 伐採の計画

伐 採 面 積	0.2ha(うち人工林 0.2ha、天然林 ha)				
伐 採 方 法	主伐 皆伐 択伐) · 間伐 伐採率 100%				
作業委託先	佐伯 太郎				
伐 採 樹 種	スギ				
伐 採 齢	40年生				
伐採の期間	令和4年 5月 1日 ~ 令和4年 6月 30日				
集材方法 集材路・架線・その他()					
集材路の場合 予定幅員・延長					

2	備考			

注意事項

- 1 伐採率欄には、立木材積による伐採率を記載すること。
- 2 樹種は、すぎ、ひのき、まつ(あかまつ及びくろまつをいう。)、からまつ、えぞまつ、とどまつ、その他の針葉樹、ぶな、くぬぎ及びその他の広葉樹の別に区分して記載すること。
- 3 伐採齢欄には、伐採する森林が異齢林の場合においては、伐採する立木のうち最も多いものの年齢を記載し、最も年齢の低いものの年齢と最も年齢の高いものの年齢とを「(○~○)」のように記載する。
- 4 伐採の期間が1年を超える場合においては、年次別に記載すること。

伐採及び集材に係るチェックリスト

		年	月	日
伐採する者:				
森林の所在場所: 佐伯市				

(1) 代採の方法及び区域の設定 ① (以採と当本の一質施業の導入を検討する。 ② 水地や生物を維件の安全に影應した民保労法を採用する。 ③ (以保が大面検にならないよう、民保労活を採用する。 ③ (大地や生物を維件の安全に影應し、保護制等や保秩人を設定する。 ③ (大地や生物を採件の安全に影應し、保護制等や保秩人を設定する。 ③ (大地や生物を採件の安全に影應し、保護制等や保秩人を設定する。 ③ (大地や生物を採件の安全に影應し、保護制等や保秩人を設定する。 ④ (大きないよう)、民体の保護は必要表小規にする。 ② 地形等のみ保に応じて、集年齢と実験を適回に組み合わせる。 ③ 土場の作設では法面を見た動所に逃避する。 ④ のネアビンカープは地象の実に上を動所に逃避する。 ⑤ (公果内療の接触に魅力等高線に合わせる。 ⑥ ヘアビンカープは地象の実に上を動所に逃避する。 ⑤ (公保保限場の・貴が結体すの場合は、集材的・土場の作政を対する。 ⑥ (公保保限場の・貴が結体すの場合は、集材的・土場の作政を設ける。やれを得ず作設する場合は、土砂が展流に流出しない工夫をする。 ⑥ (公保保限場の・貴が結体すの場合は、集材的・土場の作政を設ける。やれを得ず作設する場合は、土砂が展流に流域と対象・したりに大きる場合とは、表の展のの記憶・ ○ (公保保限場のの記憶・ ○ (公保保限場のの記憶・ ○ (公保保限場のの記念・ ○ (本)		
□ (公民学と造体の一貫施業の導入を検討する。 ②技能学生物を検性の安全に配慮した保保が施を採用を設定する。 ③技能が生物を検性の安全に配慮し、保護情帯や保残木を設定する。 ③技能が主動を検性の安全に配慮し、保護情帯や保残木を設定する。 ③技能が生物を検性の安全に配慮し、保護情帯や保残木を設定する。 ③技能が主場の作政に安全に表生情報・土場の設置・作政 ②地形等の条件に応じて、発射と架線を適切に組み合わせる。 ②地形等の条件に応じて、発射と架線を適切に超力を3。 ②地場の作政では活動を入場にする。 ②地形等の条件に応じて、集材路・土場の配置に係る計画の変更を行う。 ③集材路の線形は極力等高級に合わせる。 ③実材路の線形は極力等高級に合わせる。 ③の大路程場の工質が粘性土の場合は、集材路・土場の作政を避ける。やむを得ず作設する場合は、土砂が浸液に流出したい工夫をする。 ④技保環場の工質が粘性土の場合は、集材路・土場の作政を避ける。やむを得ず作設する場合は、土砂が浸液に流出しない工夫をする。 ④技保援場の大質が移動・適切な配置が困難な場合には隣接地番を経由することとし、隣接地の森林所有者等と調整を信に減つかって集材路の適切な間が出た場合には、未材格・土場の作政時には実全対象の上方に入人権工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にの設したが、大きの情には、その生じたは未材路・土場を作成しない。 (3) 人家、道路、取水口層辺等での配慮 ①集材路・上場の作設時には実全対象の上方に入人権工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にある場合には、そのを直に、未続を対象・上場を作成しない。 (4) 生物をには、そのをしたま材路・土場を作成しない。 (5) 切力・磁土 ①集材格の報及び土場の広まは必要最小限にする。 ②出発・道路が入り表したました。 (5) 切力・磁土 ①集材格の報及び土場の広まは必要最小限にする。 ②型出路を促れ入る、運は出しかの対象を過じる。 ②型出路を促れ入る、運は出しかの対象を固定した筋所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を選にの、近れ入る、運は出しかの対象を固めまる。 (7) 淡液横断面の洗湿、炭素を通け、地壁が安定にない。 (5) 切力・発生が成した。 (6) 新面の洗湿を建しる。 ②政・確定した、表に動のでよりには、機関が関する時には、大きめの対策を誘っため、対路に対象を選じる。 ②のは、大きめの石材を終固とないが表と聞きたい、表表の表示を選しる。 ②洗を開めたましい。 (5) 年来が表ましい。 (5) 年来が表すしい。 (4) 年来が表すしいました。 (4) 年来が表すしいました。 (4) 年来が表すしいました。 (4) 年来が表すしいました。 (5) 年来が成か出たり、対路を通さとないに通行しない、通行する場合には、大場のの政策をとい、20 (2) 年来が表が表面が表面が対策を通じる。 (4) 年来が表でしいるといに通行の企業を対した。 (5) 年来が表が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表面が表	チェック項目	確認
②株地や生物を縁性の安全に配慮し、保護期常や保険水を設定する。 ②依装する医性に配慮し、保護期間や保険水を設定する。 ③依装が、間様にならないよう、伐採り空間が、時間的な少散を検討する。 ②な装が大面様にならないよう、伐採り空間が、時間的な少散を検討する。 ②上場の作設は必要素小限にする。 ②北場の作設は必要素小限にする。 ②北場の作設は必要素小限にする。 ②北場の作設では法面を丸、組で支える等の対策を譲じる。 ③上場の作設にはじて、集体等と場象を適回に組み合わせる。 ④ヘアピンカーでは地盤の変にした箇所に温酸する。 ③集材路の、銀足は強力を高端に合わせる。 ⑥ヘアピンカーでは地盤の変にした箇所に温酸する。 ③集材路は、沢筋を視断する商別が少なくなるよう配置する。 ③集材路は、沢筋を視断する商別が少なくなるよう配置する。 ④ の大保と関かて集材格の・中部をは、集材第・土場の作政を避ける。 ②集材路は、沢筋を視断する商別が少なくなるよう配置する。 ③ 集材路は、沢筋を視断する関連な場合には隣接患を経由することとし、隣接患の森林所有各等とと調整を行う。 ③ 人家、遺豚、取水口周辺等での配慮 ①集材路・土場の作設を適じない。 (4) 生物の実験とはいて、生材を含むしない。 (4) 生物を軽性と 景線への配慮 ②水道の水化の周辺では集材器・土場を作成しない。 (4) 生物を軽性と 景線への配慮 ②水道の水化の周辺では集材器・土場を作成しない。 (4) 生物を軽性と 景線への配慮 ②水道の水化の原辺では集材器・土場を作成しない。 (5) 関本・生物の生色をかった場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 ②集落、道路等からの発験と排水の処理 ① (現状による解析の洗腸・肺炎を避けるための対策を講じる。) ② 場上が発生した場合には、流流増を避け、地繋が安定した箇所に置き、必要に応じて煮大のの対策を違じこる。 ② (5) 断面の疾患と排水の処理 ② (1) 前による経れの洗腸・が強を進け、地繋がの変にとい、原を治した場合には、流水が道路等に溢れ出ないように対策を違しる。 ② (3) 作業の検験と対したるの作業とでいる状態では適行しない。 通行する場合には、丸太等の教徒などにより流れの作者が関いないの作業とでしたいる場合には、現場の後処理等の調整をする。 ② (3) 作業の設定するの作者と認定して核条等を発出する。造体事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ② (4) 等業実験をの整理する。造体事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ② (5) 等業実験をの整理する。造体事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ② (4) 等等を発しるに流出しないまらに留意する。 ② (5) 等業実験をの変になり、毎日に、疾患の対え等のませのかがにならないように留意する。 ② (5) 等業実験をの変になり、毎日に、疾患の対な性にと、後生の回復を使す、また、滞切り等の体が処理を有する素体所有着等を確認	(1) 伐採の方法及び区域の設定	
□ 公共本でも区域の明確化を図る。 □ 本地や生物を験性の安全に配慮し、保護物帯や保険本を設定する。 ② (2) 林地保全に配慮した集材路・土場の設置・特数 □ 世形等の条件に応じて、路網と契線を選切に組み合わせる。 ② 出地等の条件に応じて、路網と契線を選切に組み合わせる。 ② 出地等の条件に応じて、路網と契線を選切に組み合わせる。 ② 出地所等の条件に応じて、路網と契線を選切に組み合わせる。 ② 出地所等の条件に応じて、路網と契線を選切に組み合わせる。 ② 出地所等の条件に応じて、総材路・土場の配置に係る計画の変更を行う。 ③ 会材路の地域では対策の場合に合わせる。 ③ 中国の状況に応じて、集材路・土場の配置に係る計画の変更を行う。 ③ 全材路の地域では大きないる。 ④ (2) 単元の上側が出て対象となるよう配置する。 ⑤ (3) 人家、道路、取な口周辺等での配慮 ① 条材路・出場に対策の必要には、無材路・土場の作政を避ける。 やむを得ず作政する場合は、土砂が浸液に流出しない工夫をする。 ⑥ (役様見場のみて集材路の通辺な配置が困難な場合には関核地番を経由することとし、隣接地の素林所含蓄等と調整を行う。 ② (3) 人家、道路、取な口周辺等での配慮 ① 条材路・土場の作政時には保全対象の上方に丸太棚工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。 ② 水道の取水口の周辺では集材路・土場を作成しない。 ② 水道の取水口の周辺では集材路・土場を作成しない。 ② 水道の取水口の周辺では集材路・土場を作成しない。 ② 水道の取水口の周辺では集材路・土場を作成しない。 ② 水道の取水口の周辺では集材路・土場を作成しない。 ② (4) 生物を作む最近には、全域が発表が作業の時期の変更等の対策を講じる。 ② と塞落、道路等の心の配慮 ② 公業務、道路等の心では、(2) 保養材路・土場を作成しない。 ② 別土部を低く物える。盛土はしつかり数の間め必要な場合には、丸太組み工等の対策を講じる。 ② 20 型土部を低く地域のでは、と変しい、地域が変定した。 ② 20 型土部を低く地域のでは、と変しい、地域が変をはしる。 ② 20 型土部を低く地域のでは、接近を満しる。 ② 20 単元のを低く地域のでは、と変しないでは、大地のの対策を進しないまり、施強のを指している場合には、大地のの設定としている場合には、大地の機能の表とを記定して放棄を変ける。 ② (4) 生物を発売が多量の水分を帯でいる対策をは近しない、地域の接近理等の部盤をする。 ② (4) 作業が水の・土場に、産業が水の土地域に使用しないように紹合とはしまり、発面のかたも動れ等を防止するが変をする。 ② (2) 非常がよりを選をを建立して放棄を選まする。 造体事業者が決まっている場合には、丸、等の複数理をいました。 20 役様の地域を発のを運用しないように紹合とは、丸、大いには、丸、大等の表では、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きのは、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きの路がは、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きの路では、大きの路がは、大きのといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといると	①伐採と造林の一貫施業の導入を検討する。	
②株林保全氏の変化した。 (保護の学問的)・時間的な分散を検討する。	②林地や生物多様性の安全に配慮した伐採方法を採用する。	
②皮薬が大面積にたらないよう、快速の空間的・時間的な分散を検討する。 (2) 林姫保全に配慮した集材路・土場の設置・作設 ①集材路・土場の付設は必要最小限にする。 ②地形等の条件に応じて、路朝と乗後を通りに組み合わせる。 ③土場の作政では抗菌を丸太線で支える等の対策を譲じる。 ①現場の状況に応じて、集材路・土場の配置に係る計画の変更を行う。 ③集材路・大場に接近から距離を対して設置する。 ③外末材路・土場の接近におして、無材路・大場の配置に係る計画の変更を行う。 ③米材路・土場に減速から距離を度いて設置する。 ③外末材路・土場に減速から距離を度いて設置する。 ④の大びとかって集材路の適切な配置が困難な場合には隣接地番を経由することとし、隣接地の森林所有者等と調整を行う。 ④代経伝域のみで集材路の地理の上がに見たする。 ④代経伝域のみで集材路の通切な配置が困難な場合には隣接地番を経由することとし、隣接地の森林所有者等と調整を行う。 ④代経伝域のみで集材路の地域の上がに見た様性とない。 ②集都・直路等からの景観に配慮にと集材路・土場を作設しない。 (4) 生物多様生と最例への配慮 ①集材路・土場の作はでは、特務・土場を作設しない。 (4) 生物多様生と最例への配慮 ①集材路の極及び上場の広さは必要最小限にする。 ②曳路の原珠と加える。盛はよしっかり乾め曲め必要な場合には、丸水組み工等を活用する。 ②改生が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を消じる。 ②教生が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を連じる。 ②り取ら高を低く加える。強はしましかりが必動め必要な場合には、丸太組み工等を透用する。 ②教生が発生した場合には、渓流増を避けるための対策を詳しる。 ②教生が発生した場合には、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗異を用いる場合はつまりが生じない資産の課金は、大きめの石砂を踏面に設置するなどにより変定させ、必要に応じて凝去する。 ②の強性素を制定する。近れまでは通行しない場合には、土砂の流出を防止するため、野路に接条を敷設する等の計置を譲じる。 ②外末様上、作業が終了して次の作業まで一地機関使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、野路に投条金を置けるのが開産を講じる。 ②の様は場が大寒・温度を重した。 ②検集場が大寒・直径が表生の上がに位置する場合には、(場別、土太等のの等下防止に最大限の注意をはらう。 ②検接場が表に流しないよりに対策を講じる。 ②大様の確故性や変化が表さなばま、技条等が天然質筋の助げにならないように留意する。 「毎年本年が決まっている場合には、現場の後処理等の調整する。 ②様材路・土場は植数等により植生の側後を使す。また、滞切り等の排水処置を行う。 ③が投来見速を行き、30様の単しを確かが無限を有する森林所有者等を確認		
② 無地保全に配慮した集材路・土場の変更・作設 ②地形等の条件に応じて、路洞と架椽を満切に組み合わせる。 ③土場の作設では法面を丸太組で支える等の対策を書じる。 ④現場の状況に応じて、集材路・上場の屋匠(係る計画の変更を行う。	④林地や生物多様性の安全に配慮し、保護樹帯や保残木を設定する。	
①無材略・土場の作取は必要最小限にする。 ②土場の作取では近面を丸太郎で支える等の対策を講じる。 ③丸場の飲況に応じて、集材略・土場の配置に係る計画の変更を行う。 ⑤来材略の解於は核力等無に合わせる。 ⑥ヘアピンカーブは地盤の安定した箇所に設置する。 ⑥ヘアピンカーブは地盤の安定した箇所に設置する。 ⑥ヘアピンカーブは地盤の安定した箇所に設置する。 ③集材略の熱化は核力等無に合わせる。 ⑥ヘアピンカーブは地壁の安定した箇所に設置する。 ③集材略の終い工夫をする。 ④伐採伝域のみで集灯略の流切な配置が困難な場合には隣接地番を経由することとし、隣接地の森林所有者等と調整を行う。 (3) 人家、道路、取水口周辺等での配慮 ①集材略・土場の作取時には保全対象の上方に丸太柵工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にある場合には、その危重しては集材路・土場を作取しない。 ②水道の取水口の周辺では集材路・土場を作取しない。 ②水道の取水口の周辺では集材路・土場を作取しない。 ②水道の取水口の周辺では集材路・土場を作改しない。 (5) 切土・盛土 ①集材格の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・産土 ①集材格の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②製土高を任く、利える。歴代にしっかり数の固め必要な場合には、丸太組み工等を括用する。 ②製土高を任く対える。歴にはしかり数め固め必要な場合には、丸太組み工等を括用する。 ②製土高を任く対力を、要にはしかり数め固め必要な場合には、鬼太組み工等を活用する。 (6) 路面の保護と排水の処理 ①商水による路面の洗過・崩壊を避けるための対策を譲じる。 ②整土が発生した場合には、浅流増を避けるための対策を譲じる。 ②酸性の動水は、浸食されてくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を譲じる。 ②性、経しは、大きめの方体を踏むとする場合には、自りの維持を引きまするとによりな場合には、大きめの方体を引き設置するなどにより変定させ、必要に応じて療まする。 (3) 作業実行上の配慮 ① 無材路・土場に、作業が終了して次の作業まで・地域関使用しない場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわたら組出を診断する対策を講じる。 ②除規様の様に、大きめの方を確しては条等を整理する。造体事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ②快採機場が表が実施している反響では、技条等が天然更新の妨げにならないように対策を請じる。 ④欠揉係の関連な状況を変しては、集を変い天然更新の方には適けるらいより、現場のおに、現場の後処理等の調整をする。 ②検材路・土場は植様等を進見しては条等を整理する。造体事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ②検材路・土場に植物に変いては、接条等が天然更新のががにならないように対策を請じる。 ⑥天然実施後の整理 □ はないないないないないないまりに確定する。 ②体材路・土場に植物に変しては、集をが表を離りのないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	⑤伐採が大面積にならないよう、伐採の空間的・時間的な分散を検討する。	
②出場の作設では法面を丸太和で支える等の対策を講じる。 ③土場の作設では法面を丸太和で支える等の対策を講じる。 ④見場の状況に応じて、集材路・土場の配置に係る計画の変更を行う。 ⑥集材路の線形は極力等高線に合わせる。 ⑥ヘアピンカーブは地鑑の変更を正ち箇所に設置する。 ⑥失探現場の土質が影性にの場合は、集材路・土場の作設を避ける。 ⑥失探現場の土質が影性にの場合は、集材路・土場の作政を避ける。 ⑦伐採現場の土質が影性にの場合は、集材路・土場の作政を避ける。 ⑦伐採現場の土質が影性にの場合は、集材路・土場の作政を避ける。 と調整を行う。 (3)人家、道路、取木口周辺等での配慮 (3)人家、道路、取木口周辺等での配慮 (3)人家、道路、取木口周辺等での配慮 (3)人家、道路、取木口周辺等での配慮 (3)人家、道路、取木口周辺等での配慮 (3)人家、道路、取木口周辺等での配慮 (3)人家、道路、取水口周辺では生材格・土場を作設しない。 (4)生物多様性と景観への配慮 (3)量が表しました。 (4)生物多様性と景観への配慮 (3)量が表した場合には、熱形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 (4)生物多様性と景観への配慮 (4)生物を野生生物の止息を知った場合には、熱形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 (4)生物多様性と景観への配慮 (4)生物を野生を物の主息を知った場合には、熱形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 (4) 生物多様性と景観への配慮 (5)切土・盛土 (5)切土・盛土 (5)切土・盛土 (5)切土・盛土 (6)降面の保護を排水の処理 (6)降面の保護を排水の処理 (6)降面の保護を排水の処理 (6)降面の保護を排水の処理 (6)降面の保護を排水の処理 (6)降面の保護を指した。(6)降面の体水は、浸食を指した。(6)降面の体水は、浸食を指した。(6)降面の体水は、浸食を進じる、(6)降面の体水は、浸食をはした。(6)には、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。略環を用いる場合にむまりが生じない。 (3)作業実行して政態を設しる、(3)作業実行と認じは、大きめの石材を発面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8)作業実行上の配慮 (3)保護現場が人家、道路等の上方に対策を講じる。 (3)保護現場が人家、道路等の上方に対策を講じる。 (3)保護現場が人家、道路等の上方に対策を講じる。 (3)保護現場が人家、道路等の上方に必然できた。関係は、東本の窓下防止に最大限の注意をはらう。 (6)投資が設定する場合には、人間、大きの変数などにより、路面のわたも観れ等を防止する、造体事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 (4)事業実施後の整理 (6)保護が発音が大力を満れている場合には、現場の後処理等の調整をする。 (5)保護場が大力に、実材的、土場の技術を変更する。造体事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 (6)保護が大力に流れが大力に対しているが表もいる場合には、現場の後の表もいるが表もいるが表もいるが表もいるが表もいるが表もいるが表もいるが表もいるが	(2) 林地保全に配慮した集材路・土場の設置・作設	
② 土場の作設では法面を丸、組で支える等の対策を講じる。 ③ 現場の状況に応じて、集材路・土場の配置に係る計画の変更を行う。 ⑤ 東村路の線形は極方等高線に合わせる。 ⑥ ヘアビンカーブは雑盤の安定した箇所に設置する。 ⑥ へアビンカーブは雑盤の安定した箇所に設置する。 ⑥ 本材路は、沢筋を横断する箇所が少なくなるよう配置する。 ⑨ 伐採児場の土質が特性土の場合は、集材路・土場の作設を避ける。やむを得ず作設する場合は、土砂が渓流に流出しない工夫をする。 ⑩ 伐採児域のみで集り紹治の週辺配置が困難な場合には隣接地番を経由することとし、隣接地の森林所有者等と調整を行う。 【3】人家、道路、飲水口開辺等での配慮 ① 集材路・土場の作設時には保全対象の上方に丸太柵工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にある場合には、その底上では集材路・土場を作設しない。 ② 水道の取水口の周辺では集材路・土場を作設しない。 ② 水道の取水口の周辺では集材路・土場を作改しない。 ② 水道の取水口の開辺では集材路・土場を作改しない。 (4) 生物多様性と最初のたちは必要最小限にする。 ② 生物・からの景線に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・盛土 ① 集材路の幅放び土地の広さは必要最小限にする。 ② 明本による路面の成態・前域を避けるための対策を講じる。 ② 明本による路面の成態・前域を避けるための対策を講じる。 ② 明本による路面の成態・前域を避けるための対策を講じる。 ② の表土が発生した場合には、流水が道路等に溢れ出ないように施育でする。暗集を用いる場合はつまりが生じないまうな対策を講じる。流い磁しとする場合は、検索循行する。暗集を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。 (6) 路面の床根・前域を発音に対策を講じる。 (7) 渓域横断筋所の処理 ① 渓流横断筋所の処理 ② 渓流横断筋の処理 ② 渓流横断筋の処理 ② 渓流横断筋所の処理 ② 渓流横断筋が上場に休寒が終了して次の作業まで・地域間使用しない場合には、丸太等の敷設などにより、路面に枚条を敷設する等の措置を講じる。 (6) 作業実行上の配慮 ○ 集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで・地域間使用しない場合には、丸太等の敷設などにより、路面のれたり組供金を防止する対策を講じる。 (6) 従来等がそるとは、大きののな形にならないように対策を講じる。 (6) 従来等がその表でしている状態を踏まるとには、便倒木、丸太等の溶下防止に最大限の注意をはらう。 (6) 役様児場が複様作業を建定して依着すを整理しる、造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整する。 (7) 事業実施後の整理 ○ 没様的路・土場は随数等によりが推定のなど、きた、溝切り等の排水処置を行う。 (9) 文様な等がほた、流れといい、連付は、大きのが発力のがにならないように対策を確しないまりを確する。 (4) 2 年間は、矢側に、風材路・土場は随数等によりが発きが天然更新など、近端に、現場の後の理解を確する。 (4) 2 年間は、大きの変更がなど、大きの変更がなど、大きのないなど、大きのないなど、大きのないなど、大きの	①集材路・土場の作設は必要最小限にする。	
②現材路の線形は極力等高線に合わせる。 ○の木がどカーブは地盤の安定した箇所に設置する。 ○の木がビンカーブは地盤の安定した箇所に設置する。 ○の大がビンカーブは地盤の安定した箇所に設置する。 ○の大がビンカーブは地盤の安定した箇所に設置する。 ○の集材路・土場は接流から距離を置いて設置する。 ②使採現場の土質が粘性土の場合は、集材路・土場の作設を避ける。 ②使採現場の土質が粘性土の場合は、集材路・土場の作設を避ける。 ②使採財場の土質が粘性土の場合は、集材路・土場の作設を避ける。 ②性採財場の力で集材格の適切な配置が困難な場合には隣接地書を経由することとし、隣接地の森林所有者等と調整を行う。 (3) 人家、道路、歌水口周辺等での配慮 ①集材路・土場の作設時には保全対象の上方に丸太柵工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にある場合には、その直上では集材路・土場を作成しない。 ②本道の取れの周辺では異材路・土場を作設しない。 (4) 生物多様性と見観への配慮 ○命かか野生生物の生息をかった場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 ②鬼落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・盛土 ○の株土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 ③吸土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 ②の残土が発生した場合には、渓流増を避けるための対策を講じる。 ②路面の根郷・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の緑水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②洗が顔面所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗葉を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じるたの実施を変を表現として快楽等を進じる。 ②洗い糖しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 ②洗い糖しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 ②洗い糖しは、大きめの石材を発面に設置する場合には、使間を用しない場合には、現場の後処理等の調整をする。 ③代採現場が人家、道路等の上方に位置する。 徳林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ③代採現場が人家、道路等の上方に対策を講じる。 ⑤大祭等が渓流に流出しないよっに対策を禁じる。 ⑤大祭等が渓流に流出しないよっに対策を禁じる。 ⑤大祭等が渓流に流出しないよっに対策を禁じる。 ⑤大祭等が渓流に流出しないよっに対策を禁じる。 ⑥大祭等が渓流に流出しないよっに対策を禁じる。 ⑥大祭等が渓流に流出しないよっに対策を禁じる。 ⑥大祭等が渓流に流出しないよっに対策を禁じる。 ⑥大祭等が洗さ流に流はしないよっに対策を禁むる。 ⑥大祭等が渓流に流出しないよっに対策を禁じる。 ⑥大祭等が渓流に流出しないよっに対策を禁むる。 ⑥大祭等が渓流に流出しないよっに対策を禁むる。 ⑥大祭等が渓流に流出しないよっに対策を禁むる。 ⑥大祭等が深水を強にないないまっに対策を禁むる。 ⑥大祭等が深水を強にないまっに対策を対策を対する。 ⑥大祭等が表がで流れるいまのまっに対策を禁むる。 ⑥大祭等が深水を強に対域に対域に対策を対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対域に対	②地形等の条件に応じて、路網と架線を適切に組み合わせる。	
□ ・	③土場の作設では法面を丸太組で支える等の対策を講じる。	
□ ○ 「マドンカーブは地盤の安定した箇所に設置する。 □ 集材路・土場は渓流から距離を置いて設置する。 □ 後採環場を、沢筋を横断する箇所が少なくなるよう配置する。 □ 役採展場の土質が粘性土の場合は、集材路・土場の作設を避ける。やむを得ず作設する場合は、土砂が渓流に流出しない工夫をする。 □ 役様区域のみで集材路の適切な配置が困難な場合には隣接地帯を経由することとし、隣接地の森林所有者等と調整を行う。 □ (3) 人家、道路、取木口周辺等での配慮 □ 集材路・土場の作設時には保全対象の上方に丸太柵工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。 ② 水煮の取れ口の周辺では集材路・土場を作設しない。 ② 水煮の取れ口の周辺では集材路・土場を作設しない。 ② (4) 生物多様性と景観への配慮 □ 条・道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 □ (5) 切土・盛土 □ 集材路の領及び土場の広さは必要最小限にする。 □ ② 収集系、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 □ (3) 規本を担く切れる。 盛土はしっかり放め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ② 3 受土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を譲じる。 2 (6) 路面の保護と排水の処理 □ 雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ② の財高の建株は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集むのと下がる。 □ (7) 探滅横断箇所の処理 □ (実液横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材務の路面を一段下げる。 ② 洗れ機制を出ていては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。 6 (8) 作業実行上の配慮 □ (集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地城間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ② (2) 非実生が多量の水分を帯でている状態では通行しない。通行する場合には、丸大等の形下防止に最大限の注意をはらう。 (9) 投稿を表しまが決定。に流出しないように対策を講じる。 ② (2) 非業実施後の整理 (1) なり、2 (2) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (5) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	④現場の状況に応じて、集材路・土場の配置に係る計画の変更を行う。	
②集材路・土場は渓流から距離を置いて設置する。 ③集材路は、沢筋を横断する箇所が少なくなるよう配置する。 ④災秩尾場の土質が粘性土の場合は、集材路・土場の作散を避ける。やむを得ず作設する場合は、土砂が渓流に流出しない工夫をする。 砂災採尾域のみで集材路の適切な配置が困難な場合には隣接地番を経由することとし、隣接地の森林所有者等と調整を行う。 (3) 人家、道路、取水口周辺等での配慮 (3) 人家、道路、取水口周辺等での配慮 (3) 人家、道路、取水口周辺等での配慮 (3) 上場の作設時には保全対象の上方に丸太柵工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。 (4) 生物多様性と異像への配慮 ①命少な野生生物の生息を知った場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 ②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・産土 ①集材路の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②即式高を低く抑える。盛主はしっかり放め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を譲じる。 (6) 路面の保護と排水の処理 ①問本による路面の排末は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい磁土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 突液横断箇所の処理 ②露面の排末は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい磁土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 深液横断箇所の処理 ②酸面の排末は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい磁土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (2) 経験保護所管には、流水が道路等に溢れ出ないように結行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。洗い糖しとする場合は、機断箇所で集材路の路面を一段下げる。 ②洗い糖し仕、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (3) 作業子上の配置と前にする場合には、性別が多りを選がしまする場合には、土場の前出を防止するため、路面に投条を敷設する等の計置を講じる。 (3) 作業子上場に動いを影響が表しまりに強いまする場合には、現場の後処理等の調整をする。 (3) 作業子に流しては、後条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (4) 保険保険場が入客、道路等の上方に位置する場合には、使別よ、丸大等の落下防止に最大限の注意をはらう。 (4) 保険保険場が入客、道路等の上方に位置する場合には、使別よりには、現場の後処理等の調整をする。 (5) 作業子に流しては、後条等が大力に、近半でのに近にがな場合には、現場の後処理等の調整をする。	⑤集材路の線形は極力等高線に合わせる。	
 (多集村路は、沢筋を横断する箇所が少なくなるよう配置する。) (別校採現場の土賃の給付は、集村路・土場の作設を避ける。やむを得ず作設する場合は、土砂が浸流に流出しない工夫をする。 (砂(採民域のみで集材路の適切な配置が困難な場合には隣接地番を経由することとし、隣接地の森林所有者等と調整を行う。 (切) 人家、道路、取水口周辺等での配慮 (①集村路・土場の作設時には保全対象の上がに丸太棚工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。 (2 生物を操性と景観への配慮 (3) 人家、道路等の重要な保全対象・上場を作設しない。 (4) 生物を操性と景観への配慮 (3) 小本のか事と物の生息を知った場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 ②集落、道路等からの景観に配慮した集村路・土場を作成しない。 (4) 生物を優性と関報への配慮 (5) 切土・盛士 (5) 切土・盛土 (6) りました、深流増を避け、地盤が変定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 ②野土が発生した場合には、深流増を避け、地盤が変定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 (3) 路面の保護と排水の処理 (6) 路面の保護と排水の処理 (7) 経流機断箇所の処理 (2) (2) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	⑥ヘアピンカーブは地盤の安定した箇所に設置する。	
② (父孫現場の土質が粘性土の場合は、集材路・土場の作設を避ける。やむを得ず作設する場合は、土砂が渓流に流出しない工夫をする。 (3) 人家、道路、取水口周辺等での配慮 (0) 集材路・土場の作設時には保全対象の上方に丸太棚工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。 (4) 生物を操性と異物への配慮 (2) 水道の取水口の周辺では集材路・土場を作設しない。 (4) 生物を操性と異心の配慮 (2) 集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作設しない。 (5) 切土・癒土 (0) 集材路・側板で打場の広さは必要最小限にする。 (2) 曳浦高・道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・癒土 (0) 集材路の幅度び土場の広さは必要最小限にする。 (2) 切土高を低く抑える。盛土はしっかり殺が周め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 (3) 残害が発生した場合には、流流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を譲じる。 (2) 別面の保護と排水の処理 (1) 関本の保護と排水の処理 (1) 関本の保護と排水の処理 (1) 関本では、決食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (2) 労強機断箇所の処理 (2) (2) 発機動箇所に設置するなどによりの対策を認らにないまうな対策を認じる。 (3) 作業実行上の配慮 (3) 作業の行上の配慮 (3) 作業の行上の配慮 (3) 作業の行上の配慮 (4) 集団等の上方に位置する場合には、大場の落下防止に最大限の注意をはらう。 (4) (4) 保険、関本等を防止する対策を譲じる。 (5) (5) (5) (6) (6) (7) (7) (7) (8) (7) (8) (8) (7) (8) (7) (8) (8) (7) (8) (7) (8) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (8) (7) (8) (8) (7) (8) (7) (8) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (7) (8) (8) (7) (8) (7) (8) (8) (7) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8	⑦集材路・土場は渓流から距離を置いて設置する。	
に流出しない工夫をする。 郷代核区域のみて乗料路の適切な配置が困難な場合には隣接地番を経由することとし、隣接地の森林所有者等と調整を行う。 (3) 人家、道路、取水口周辺等での配慮 ①集材路・土場の作設時には保全対象の上方に丸太柵工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。 ②水道の取れ口の周辺では集材路・土場を作設しない。 (4) 生物多様性と景観への配慮 ①希かな野生生物の生息を知った場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 ②集整、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・盛土 ①集材路の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②切土高を低く抑える。盛生にはしっかり絞め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、浸流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 ②明本に高を低く抑える。盛生にはしっかり絞め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、浸流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 ②防一の保護と排水の処理 ①雨水による路面の洗剤・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛上部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛上部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛上部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (3) 作業実行しの配慮 ①集材路・土場は、大業が高を踏している状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路のかわざら掲れ等を砂止するが実を講じる。 ②保練現場が入家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ②伐採環場が入家、道路等の上方に位置する。 (3) 事業実施後の整理 ○以及場所を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (3) 事業実施後の整理 ○以及場所を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (3) 事業実施後の整理 ○以及来でをしばい必ずいなりが同じは、検条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (3) 事業実施後の整理 ○以及来でとしばいなが、なりが同じは、検条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (4) 年業実施後の整理 ○以及が関係ないまり、現場では、大条の妨にのほれに加入り、実施の妨けにならないように留意しまでありましまでありますないますに留意でありませないますないますに配意でありますないますないますないますないますないますないますないますないますないますない	⑧集材路は、沢筋を横断する箇所が少なくなるよう配置する。	
●快採区域のみで集材路の適切な配置が困難な場合には隣接地番を経由することとし、隣接地の森林所有者等と調整を行う。 (3) 人家、道路、取水口周辺等での配慮 ①集材路・土場の作談時には保全対象の上方に丸太柵工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。 ②水道の取水口の周辺では集材路・土場を作設しない。 ②水道の取水口の周辺では集材路・土場を作設しない。 (4) 生物多様性と景観への配慮 ①希少な野生生物の生息を知った場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 ②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・盛土 ①集材路の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②別土高を低く抑える。産土はしっかり絞め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を誇じる。 (6) 路面の保護と排水の処理 ①開水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 渓流横断箇所の処理 ①漢流横断箇所の処理 ①漢流横断箇所に数は、大きのある対策を講じる。 ②洗い超しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 □ 気材寒を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。 ②洗い超しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (9) 体解のかたが観が等を強止する対策を講じる。 ③後採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の務下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採環の値載作葉を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ③後採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採環の値載作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 本業実施後の整理 □ 気料を上場は複数等により植生の回復を促す。また、満切り等の排水処置を行う。 ②集材路・土場は植数等により植生の回復を促す。また、満切り等の排水処置を行う。 ②集材路・土場は植数等により植生の回復を促す。また、満切り等の排水処置を行う。 ②集材路・土場は植数等により植生の回復を促す。また、満切り等の排水処置を行う。	⑨伐採現場の土質が粘性土の場合は、集材路・土場の作設を避ける。やむを得ず作設する場合は、土砂が渓流	
と調整を行う。 (3) 人家、道路、取水口周辺等での配慮 ○集材路・土場の作設時には保全対象の上方に丸太権工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。 ②水道の取水口の周辺では集材路・土場を作設しない。 ②水道の取水口の周辺では集材路・土場を作設しない。 ②水道の野水口の周辺では集材路・土場を作設しない。 (4) 生物多様性と景観への配慮 ①希少な野生生物の生息を知った場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 ②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・盛土 ①集材路の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②切土高を低く抑える。盛土はしっかり紋め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 ②野面の保護と排水の処理 ①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の俳水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②路面の俳水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②路面の俳水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②路面が未は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②洗し載しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (3) 作業す行しの配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面には条を敷設する等の構置を書じる。 ③依様現場が入家、道路等の上方に位置する場合には、使倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採復の植枝作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑥技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥大条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥大条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑤技条等が渓流に流出しないよりに対策を講じる。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を対する。 ②後採現場がより衛性表が呼ばれた近にパルルルにフ、神中即線を砂がまりといいがよりに対する場合には、対する場合には、大場の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表	に流出しない工夫をする。	
(3) 人家、道路、取水口周辺等での配慮 ①集材路・土場の作設時には保全対象の上方に丸太柵工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象 下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。 ②水道の取水口の周辺では集材路・土場を作設しない。 ②水道の取水口の周辺では集材路・土場を作設しない。 ②条落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 ②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 ②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・盛土 ①集材路の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②均土高を低く抑える。盛土はしっかり紋め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 ②野面の保護と排水の処理 ①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流域断衛所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。 徳小越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の排置を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採復め植数件葉を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 季葉施後の整理 □(以本すで以体気場に交り場では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ②後採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認	⑩伐採区域のみで集材路の適切な配置が困難な場合には隣接地番を経由することとし、隣接地の森林所有者等	
□集材路・土場の作設時には保全対象の上方に丸太柵工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。 ②未道の販水口の周辺では集材路・土場を作設しない。 (4) 生物多様性と景観への配慮 □希少な野生生物の生息を知った場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 ②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・盛土 □集材路の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②切土高を低く抑える。盛土はしっかり設め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流噌を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 ②別土高を低く抑える。盛土はしっかり設め固め必要な場合には、東流組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流噌を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 (6) 路面の保護と排水の処理 □育による路面の洗掘・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 □集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に技条を敷設する等の措置を講じる。 ③後採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場体事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を護じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、核条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業施後の整理 □位ないように対策を講じる。 ②集材格・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、漬切り等の排水処置を行う。 ②集材格・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、漬切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認	<i>□</i> - · · · · ·	
下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。 ②水道の取水口の周辺では集材路・土場を作設しない。 (4) 生物多様性と景観への配慮 ①希少な野生生物の生息を知った場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 ②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・盛土 ①集材路の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②切土高を低く抑える。盛土はしっかり絞め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 ②路面の保護と排水の処理 ①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗環を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に技条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち堀れ等を防止する対策を講じる。 ②性雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、現場の後処理等の調整をする。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採復の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑤天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ○位は根等により植生の回復を促す。また、満切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認	(3) 人家、道路、取水口周辺等での配慮	
②水道の取木口の周辺では集材路・土場を作設しない。 (4) 生物多様性と景観への配慮 ①希少な野生生物の生息を知った場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 ②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・盛土 ①集材路の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②切土高を低く抑える。盛土はしっかり彼め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を讃じる。 (6) 路面の保護と排水の処理 ①雨木による路面の沈堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 寝流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。 (3) 作業実行上の配慮 ①集就機比は、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (3) 作業実行上の配慮 ①集材格・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ③後採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の素下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の値載作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業施後の整理 ○仮太守を以体が場に次は「個ないに、大人等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認	①集材路・土場の作設時には保全対象の上方に丸太柵工等を設置する。特に、人家、道路等の重要な保全対象	
(4) 生物多様性と景観への配慮 ①希少な野生生物の生息を知った場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 ②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・盛土 ①集材路の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②切土高を低く抑える。盛土はしっかり絞め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 (6) 路面の保護と排水の処理 ①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に投秦を敷設する等の措置を講じる。 ②伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸、等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採現場が人家、道路等の上方に位置する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が実流に流出しないように対策を講じる。 ⑥大然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ○収太守を収述が過に及り極生の回復を促す。また、満切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認	下にある場合には、その直上では集材路・土場を作設しない。	Ш
①希少な野生生物の生息を知った場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。 ②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・盛土 ①集材器の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②切土高を低く抑える。盛土はしっかり絞め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 (6) 路面の保護と排水の処理 ①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降採製場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑥天然更揚が入家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑥天然更揚が入家、道路等の上方に位置する場合には、大塚の様のでは、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ∪な水中で以ば水があいなり、疾れ路では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ○収収中で以ば、技条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ○収収中で以ば、技条等が天然更新の妨げにならないように対策を講じる。 (9) 事業実施後の整理 ○収収中で以ば、技条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (1) 事業実施後の整理 ○収収中で以ば、技条等が天然更新の妨げにならないように対策を講じる。 (1) 事業実施後の整理 ○収収中で以ば、技条等が天然更新の妨げにならないように対策を講じる。 (2) 事業実施後の整理 ○収収中では、技条等が天然更新の妨げにならないように対策を確認する。 (3) 体系表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が表が	②水道の取水口の周辺では集材路・土場を作設しない。	
②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。 (5) 切土・盛土 ①集材路の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②切土高を低く抑える。盛土はしっかり絞め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を護じる。 (6) 路面の保護と排水の処理 ①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 溪流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降経り場合により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだら堀れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が入家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ○収な中で以ばい場にに対しているには、大阪にしのははにいり、降地閉場を砂汚まりることがないよりに関連する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認	, , —,, , , , , , , , , , , , , , , , ,	
(5) 切土・盛土 ①集材路の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②切土高を低く抑える。盛土はしっかり絞め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 (6) 路面の保護と排水の処理 ①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。 洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 □「整理する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ②伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認	①希少な野生生物の生息を知った場合には、線形及び作業の時期の変更等の対策を講じる。	
①集材略の幅及び土場の広さは必要最小限にする。 ②切土高を低く抑える。盛土はしっかり絞め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 (6) 路面の保護と排水の処理 ①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 突流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤大然東場が入家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤大然東新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ∪区本寺で区は下投物に交り場では、大条瓜にの瓜和山にり、降地開環で砂光りのは下がよりに、関切な場内に、単れば、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに	②集落、道路等からの景観に配慮した集材路・土場を作成しない。	
②切土高を低く抑える。盛土はしっかり絞め固め必要な場合には、丸太組み工等を活用する。 ③残土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 (6) 路面の保護と排水の処理 ①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ②渓れ横断方の処理 ②渓れ横断方の処理 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだも掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採復の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ○レベスキャでと文体が次端に次り場面には、ほのにのほれに回く、呼中周線であったり、回りは、側切り等の排水処置を行う。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
②残土が発生した場合には、渓流増を避け、地盤が安定した箇所に置き、必要に応じて、丸太組み工等の対策を講じる。 (6) 路面の保護と排水の処理 ①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①楽活横断箇所の処理 ①楽活横断箇所の処理 ①楽活横断箇所の処理 ①楽活横断箇所の処理 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだら堀れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業産後の整理 ○□∇スキマを区体兄婦では、ケの配にのほどには、クロにのはないに、クロにのなるないように留意する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
 を講じる。 (6) 路面の保護と排水の処理 ①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 深流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだら掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 以仅本等で又以体現場では、場外路・土場に他は比回にり、歴史印象で誘定することかないように関意する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、満切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認 		
(6) 路面の保護と排水の処理 ①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑥技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥大条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 □∇米等で区は光光場に及り場合は、快価に価和に口にり、呼地用場で防充りることがないよりに、週別な場内に整理する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
①雨水による路面の洗堀・崩壊を避けるための対策を講じる。 ②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 溪流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 □□ □□ □□ □□ □□ □□ □□ □□ □□ □□ □□ □□ □□		
②路面の排水は、浸食されにくい箇所でこまめに行う。崩れやすい盛土部分は崩壊等を避けるための対策を講じる。 (7) 渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ○収米・予定しているでは、核条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
じる。		
(7) 渓流横断箇所の処理 ①渓流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤枝条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 □(収末等で区体現物に次り物では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 □(収末等で区体現物に次り物では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 □(収末等で区体現物に次り物では、ためにしばれいについないように、溝切り等の排水処置を行う。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
①渓流横断箇所においては、流水が道路等に溢れ出ないように施行する。暗渠を用いる場合はつまりが生じないような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 □(収末寺を収珠光物に欠り物面は、矢肌にのほれに田にり、瞬地朋級を訪先りることがないよりに、週別な物内にないます。) 「整理する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
いような対策を講じる。洗い越しとする場合は、横断箇所で集材路の路面を一段下げる。 ②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤枝条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ②仅未守を区は未免場になり場合には、ほの近れに近れてり、瞬地朋級を勝定りることがないよりに、週別な場所に整理する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
②洗い越しは、大きめの石材を路面に設置するなどにより安定させ、必要に応じて撤去する。 (8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 □区株式をびば休光物になり物では、失仇にのほれにより、瞬地朋級を誘発することがないよりに、適知な物にないます。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
(8) 作業実行上の配慮 ①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤枝条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 □□☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆		
①集材路・土場は、作業が終了して次の作業まで一地域間使用しない場合には、土砂の流出を防止するため、路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 □(又来寺を区珠光場でになり場合は、疾のにのほれに回にり、歴史即塚を誇先りることがないように、週別な場所に整理する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
路面に枝条を敷設する等の措置を講じる。 ②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤枝条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ①仅未守で区体状場では、技条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ②仅未守で区体状場では、技条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
②降雨等により路盤が多量の水分を帯びている状態では通行しない。通行する場合には、丸太等の敷設などにより、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤枝条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ②仅未守で区体が場所になり場合には、供のにの低れ田にり、際理理用級を跨無りのことがないよりに、適切な場所に整理する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
より、路面のわだち掘れ等を防止する対策を講じる。 ③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ④仅朱寺を区体児物になり物目は、疾のにのほれにより、呼中・明塚を訪先りることがないように、週別な物力した。 整理する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
③伐採現場が人家、道路等の上方に位置する場合には、伐倒木、丸太等の落下防止に最大限の注意をはらう。 ④伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9) 事業実施後の整理 ④仅米寺で以休児物になり物合は、侯のにのほれにより、瞬地朋塚で訪先りることかないように、週別な物力した。 整理する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
①伐採後の植栽作業を想定して枝条等を整理する。造林事業者が決まっている場合には、現場の後処理等の調整をする。 ③技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9)事業実施後の整理 ①仅未守で以休児物に次り物言は、矢肌に伽和山にり、瞬地朋塚で誘来りることがないように、週別な物内した 整理する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
整をする。 ③技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9)事業実施後の整理 ①仅未守を収休場場になり場合は、侯のにのはれ口にり、瞬地朋場を誘乗りることがないように、週別な場内 整理する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
⑤技条等が渓流に流出しないように対策を講じる。 ⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9)事業実施後の整理 以仅未等を区球状境物に次り物音は、供のにの成れ口にり、瞬地朋場を勝乗りることがないように、適別な物力 整理する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
⑥天然更新を予定している区域では、枝条等が天然更新の妨げにならないように留意する。 (9)事業実施後の整理 以及来寺を民体状況物に及り物目は、供意にの成れ口にり、解地朋塚を勝乗りることがないように、週別な物力 整理する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
(9) 事業実施後の整理 ① 仅米寺で以休先場になり場合は、供の取らの144年にり、際地朋塚で勝乗りることかないよりに、適知な場所 整理する。 ②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③ 伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
□ 収		
②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認	\3/ 尹未天処仮り笠垤 ①仅米寺を以休児物に次り物百は、伊伽に伽和山にり、桝地朋塚を訪先りることかないよりに、週別な物別	
②集材路・土場は植栽等により植生の回復を促す。また、溝切り等の排水処置を行う。 ③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認	東田子ス	
③伐採現場を引き上げる前に、集材路・土場の枝条等の整理の状況を造林の権限を有する森林所有者等を確認		
I L N B C 措直を譲した。	○ 以休祝物を引き上げる前に、朱材ム・上物の权未等の登座の状况を垣杯の権限を有する未体所有有等を確認 し、必要な措置を講じる。	

② 搬出系統図 (例)

